カトリック入門講座　（４回）　ミサの枠組み

第一部　ことばの典礼（ことばの食卓）開祭(の儀)　　　**１入祭の歌**　２あいさつ
開祭の目的・・一つに集まった信者が、一致するためであり、神の言葉を正しく聞き、感謝の祭儀をふさわしく行うよう自らを整えるため

１）神がミサへ参加することを呼びかける・・　**各自の応答**　⇒　ミサへ参加する
典礼聖歌　♪「喜びに、心をはずませ、神の家に行こう。・・」　詩編

いのちを大切にする神は、いのちの出発点だけでなく、**いのちを健やかに成長させる手立て**を、
人生の節目と共に用意している。最後にこの世界から神の元へ連れてゆくまで⇒　安息に入る。

２　あいさつ
司祭　①　「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが皆さんと共に。」
②　「主イエス・キリストによって、神である父からの恵みと平和が皆さんと共に。」
③　「主は皆さんと共に。」　　　**一同　「また司祭と共に」**　（ミサ中５回ある）

招く神に応答する：
キリスト教では、主語は神、神が先に働きかけ、恵みを与える。（**神の先行的な恵み**）
＊「恵み」とは、神が無償で私たちに与えて下さるもの。お金では買えない。
神から私たちへの最大の恵みは「イエス」が人となってこの世に来られたこと。
クリスマス＝降誕祭はこの恵みを祝う日で、１２月２５日
私たちは、神の働きかけや神の恵みに気づいて答える。
招く神に応答する．⇒祈りは対話である。ひとりごとではない。聴き　－　語る　－聴く

祈りを生活の中で始めてみましょう。
①　祈りをしようとする時に、自分の心を集中する、整える。
②　神に向かって、今日一日のことを振り返って語ってみる。
嘆き、悲しみ、喜び、感謝、願いなど。
そして何よりも聴いて見る。⇒　自分の周りのかすかな音やニュース、景色など。
③　自分の姿を眺めてみる。
④　知っている祈りをゆっくりして見る。　自分の気持ちを言葉化して見る。など

ミサにふさわしく参加するために、心を整える、準備する　⇒　回心の祈り
回心とは、自分を主語にして生きている私が、神を主語にして、人や物事と関わること。
自分の視点を自己中心から、神中心に移して、生活や出来事を見つめること。

回心の祈り　⇒「全能の神と、兄弟のみなさんに告白します。私は、思い、言葉、行い、怠りによって、たびたび罪を犯しました。聖母マリア、すべての天使と聖人、そして兄弟の皆さん、罪深い私のために、神に祈って下さい。」

司祭：「全能の神が私たちの罪を赦し・・・」

あわれみの賛歌：主よあわれみ給えｘ２、キリストあわれみ給えｘ２、主よ、あわれみ給えｘ２
栄光の賛歌：待降節、四旬節、葬儀ミサでは歌わない。

集会祈願：　ミサに集まった会衆の祈りを、司式者として司祭が取りまとめて、父なる神に向かって祈る。
結びが、「聖霊の交わりの中で、全能の父であるかみに、すべての誉れと栄光が世世に至るまで。アーメン」と祈る。　ミサ中に３つの公式祈願がある。集会祈願・奉納祈願・拝領祈願